

John Steinbeck著 “Vanderbilt Clinic”日本語訳 (a Japanese translation of “Vanderbilt Clinic” by John Steinbeck)

山内 圭¹⁾

1) 新見公立大学健康科学部

(2018年11月21日受理)

本稿は、ノーベル賞作家ジョン・スタインベック(John Steinbeck, 1902-1968)が執筆したニューヨークのヴァンダービルト・クリニック(Vanderbilt Clinic)の紹介文と病院案内からなるパンフレット(1947年3月発行)の日本語訳である。

(キーワード) Vanderbilt Clinic, John Steinbeck, New York

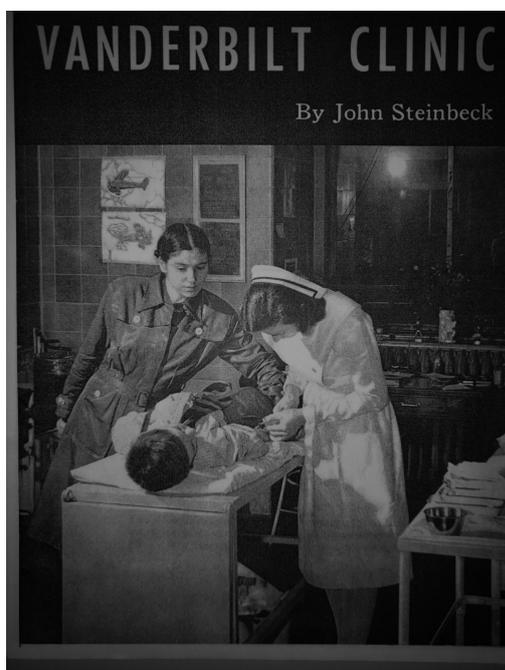


写真 1

自分が支持し、いつも自分が診察してもらっている病院について考える時、素人の心には、避けがたい感情の障壁が立ち上がってくるが、その原因はいたって単純なものである。人々は、病気やけがの時、または、苦痛や困難な時にしか、または、友人や家族が苦痛や困難な時に見舞う目的でしか病院に行かないからである。したがって病院は、不安や不幸な時間や場面の背景となるのである。そして、たとえ病院への訪問の結果が幸せなものであったとしても、病気やけがやさらに神秘的思い出が残るのである。白衣、静けさ、素人には神秘的な医療技術、麻酔薬や消毒薬のにおい、それらすべてが相まって、不安の原因となるの

だが、それは当然理解できることである。普通の人にとって、病院とは困った時に駆け込み、必要のない時には意識にも上らない場所なのである。この種のすべての障壁と同様に、解決策は病院をよりよく知り、より関わることである。

このことを考慮して、コロンビア・プレスビテリアン医療センターは、病院の支持者たちが、病院やそのヴァンダービルト・クリニックでの一般的な生活を、患者や患者の家族として個人的に訪問しなくてもわかるようにこの小冊子を発行したのである。

当医療センターで診断され治療される人の数はとても多い。毎日、1,300人を超える人たちがヴァンダービルト・クリニックを訪れる。昨年、32,136人の小児が小児病棟を訪れ、1,295人の退役軍人がリハビリテーション・サービスを求めて訪問した。1946年の402,084件の訪問件数のうち76,483件の医療費が無料であった。そしてすべての人が、かかるコスト以下の治療費で治療を受けた。

しかし、これらは数字であり、100万人が死んだとしてもその中の一人も知らなければ大して重要でないということと同様のことである。

これらの数字から、この医療センターはカルテを入れる引出しに始まりカルテを入れる引出しに終わる巨大なベルトコンベヤーのように思われるかもしれない。しかしそれだけのはずはない。確かにカルテはあるが、それぞれのカルテが語る物語は長く複雑なものであり、どのカルテをとっても同じものは一つとないのである。そして、時に、その物語は何年も続くのである。

例えば、Mは11歳の魅力的で明るい少女である。彼女は決して歩けるようにはならないかもしれないが、彼女は車椅子に乗って近所を移動し、彼女の両親や友達が彼女を障害児ではなく有能な子であると考えられる程度まで知的に発

*連絡先: 山内 圭 新見公立大学健康科学部看護学科 718-8585 新見市西方1263-2

達した。

Mは、生後17か月の頃からヴァンダービルト・クリニックの患者である。最初の検査で彼女は脳性まひであると診断された。彼女の身体全体が関わっている。彼女の治療は、医療というよりは社会訓練であった。彼女は、自分の障害をできるだけ忘れ、自分のできることに誇りと喜びを持つよう教えられた。彼女の頭は理解が早く賢明で、彼女は容易に学習した。週2回彼女は自宅で訓練と筋肉再教育を受け、今では助けがあれば数歩歩けるようになった。Mの治療とケアは彼女を完全に普通の子どもにはしてくれないが、彼女に幾分かの表現と満足の機会を与えている。彼女の治療の最も重要な部分は、適応である。

患者とはけっして切り離された存在ではない。傷病を負った子どもは、両親や兄弟姉妹、あるいは隣人たちといった多くの人々に苦悩をもたらす。その子どもの治療に続き、しばしば家族への対処が必要となり、家族も再調整を行う。誰も一人ではないというダンの格言は、その人や子どもが傷病を負っている場合は二重に当てはまる。疾病の社会的影響は甚大である。医療センターによるこのことの発見は、現代医療の偉大な進歩の一つである。脳性まひの子どもの家族はしばしば、患児以上に治療を必要とする。

当メディカルセンターは、街全体を覆っているネットワークの中心である。それは、何千軒の家をつなぎ、治療に加え、あちこちで元気づけ、勇気づけ、指導や助言を与えている。教育—脳性まひの子どもに長い時間忍耐強く歩くことを教えることからゆっくりと回復する娘をどのように扱い激励するかを母親に教えることまで—がメディカルセンターの大きな役割の一つとなった。

国家の段階的な社会的進歩の中で、プレスビテリアンのような医療センターは、大きな位置を占めるようになった。国家の健康はその構成単位(国民や家族)の健康そのものであると現在一般的に理解され同意されている。また、心の健康が身体の健康と同じくらい大切であると徐々に考えられつつある。健康全体のこれらの領域(心の領域)を扱う病院の診療科が年々重要となり、活発になっている。

この100年間の病院の進歩と変化は目覚ましい。病人やけが人を見えなくし忘れてしまうように隔離されたせまくて、人知れぬ、暗い病人収容所から、教育や予防が治療と同様重要になっている当医療センターのような大きな組織へと進化している。出生前検査と産後教育だけをとってみても母子の死亡率を着実に減少させていることで素晴らしい診療所の存在意義を正当化している。

病院はよく知られ、よく理解される必要がある。病院は人が困った時に単に行く場所ではなく、地域の健康がしっかりと管理される中心地であるべきである。病院の仕事はあまり広くは宣伝されていないし、通常の意味ではそうする必要はないが、医療センターの取る方法や機能についての理解や知識は地域住民にとって極めて重要である。医療

センターの業務は決して減らない。より多くの病気やけがの細部が調査され、管理されるに連れ、医療センターの業務は増加し、私たちすべての関心や支援が続き強化されることによって、医療センターの業務は増えるであろう。

私がこの小文を書こうと思った理由は極めて単純である。コロンビア・プレスビテリアン医療センターのカルテの中には4枚のカルテがあり、それらには私の妻、私の幼い二人の息子たち、そして私自身の名前が記されているからである。

ジョン・スタインベック



写真2

入り口のドアを入ったところにあるヴァンダークリニックのインフォメーションデスクはクリニックに入ってくる患者が最初に訪れるところである。ここで新患は診断申込書を受取る。法によって定められたいくつかの質問に回答した後、患者は入院担当医によって予備診断を受ける。患者が個人保険による医師の診療を受けられないということが入院資格である。当クリニックの収容可否や患者の疾患の複雑さや重篤さを元にさらに審査が行われる。当クリニックで受けられない患者については、たいていは患者の自宅により近い他の医療機関への紹介状が作成される。



写真 3

当クリニックの真髄は、患者が医師に迅速に見てもらえるという事実である。この医師は、病院実習医かインターンであるが、患者の訴えの要約を記録し、注意深い検査に基づき、この患者の病状がクリニックへの入院が必要かどうかについて説明を行う。緊急性をともなう全ての重要疾患の場合は即座の治療と処置のため入院となる。



写真 4

整形外科病棟は、ヴァンダービルト・クリニックで行われている70の「実習」病棟の一つである。上の写真内の男性は入院患者で、彼の脊椎のレントゲン写真が撮影され、今、医師が患者にレントゲン写真の概要を説明している。医師とともに同席しているのは(医師の左側及び右側)、3人の医学生であり、整形外科患者のケアについて直接学んでいる。これらの学生は、プレスビテリアン病院が提携して

いる医学部の3年生または4年生である。クリニックでの日々の業務に加え、学生たちは病棟のある部分の事務的な仕事と提携病院での医療歴を記録することになっている。そして近い将来、完全な診断精密検査が医療専門家のチームの手によって行われる準備となっている。

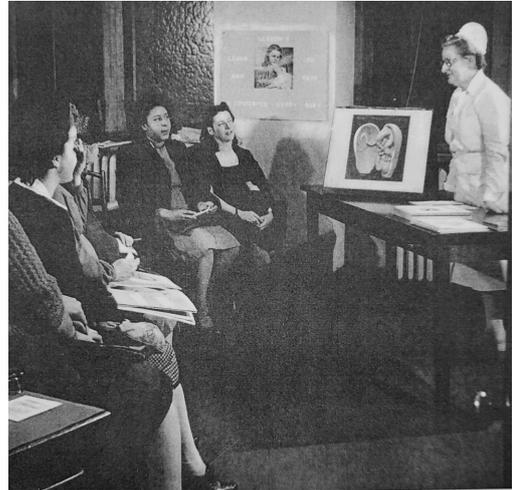


写真 5

母親準備講座は、これから母親となる女性たちに食事、運動、仕事そして財政的にどのように計画をするかを学ぶ支援を行っている。写真の女性たちは、胎児の成長について説明を受けているところである。彼女たちが、どのような服や道具を買い揃えるのか、歯科ケアの重要性、乳児への適切な授乳とケアについて知ることは不可欠なことである。講座は打ち解けた雰囲気のものであり、6週間にわたって行われる。胎児・乳児の健康と幸せのため、質問は歓迎される。



写真6

眼科もヴァンダービルト・クリニックの70余りの診療科の一つである。写真では子どもが一般的な目の検査を受けている。この病院スタッフドクターは、クリニックの患者の医療のために時間を割いて診療を行っている400人余りの医師の一人である。このような診療科は正看護師が配置され医師をサポートし、青い縞模様の制服を着た2人の看護学生が正看護師の助手となっている。これらの学生は、プレスビテリアン病院附属看護学校の学生で、同校では3年の看護課程を有し、毎年100人程度の学生を卒業させている。



写真7

脳性まひクリニックでは、脳の損傷の結果の写真のような子どもたちにシャッフル・スキー(歩行練習機)を用いて歩く練習を支援する。脳性まひ患者は、不随意運動が起ってしまう者、不随意けいれんが正常な動きを妨げてしまう者、筋肉の連係動作に欠ける者の3つのグループに分類できる。脳性まひは子ども時代の肢体不自由の原因となる

主な疾患の一つである。ニューヨーク・シティーだけでも年間400~500人の子どもが脳性まひにかかると考えられている。この恐ろしい疾患には特定の治療法がない。身体的リハビリテーション—動きを制御できるようにすること—と最近発見されたクラレのような薬物療法が、これらの子どもたちへの望みを提供している。医療センター内ではニューヨーク公教育制度による学校があり、子どもたちがリハビリを受け正常な生活を送ることができるよう特別授業が行われる。(写真後方に写っている)母親たちも脳性まひクリニックの訓練に参加することができ、母親たちも技術や練習法を学び、クリニックで始められた訓練を家庭でも行うことができる。母親たちの忍耐と理解のある支援が、子どもたちが安定した体の動きを回復させる努力の成功における最大の要因の一つである。



写真8

姿勢クリニックは、当病院で行われている重要な理学療法プログラムの一つである。それは悪い習慣または脊椎の湾曲による悪い姿勢の矯正クリニックである。脳性まひクリニックに母親たちが参加するのと同様、母親たちは子どもたちを「よい姿勢」クリニックでの訓練に連れてきて、病院で学んだ練習法を家庭でも続けられるようにしている。



写真9

救急入院科の松葉杖室はいつでも開いている。夜間でも休日でも、自宅での事故や交通事故のため医療が緊急に必要な人たちが病院に押し寄せる。救急入院科はその目的のために存在する。救急入院科には、患者の処置をすぐに行うための特別な入口がある。患者が帰宅するために必要なものが、杖、または松葉杖である場合のため、この部屋のドアはいつでも空いている。



写真10

ヴァンダービルト・クリニックの入り口は（マンハッタンの）167丁目とブロードウェイの交差点にある。クリニックの建物は、9番街と10番街の間の60丁目の当初の場所から移設された元の建物の一つである。今日、当病院はアメリカで最大の寄付経営クリニックとしてニューヨーク市民に奉仕している。全ての科が患者をプレスビテリアン病院に入院させることができる提携を持っていることに加え、実習クリニックという存在でもある。革新的なことの一つは、当クリニックは賃金労働者が時間を節約し、一日で各専門医による完全な診断的検査を受けることができるグループ開業クリニックであるということである。クリニックでは、病人のための医療を提供するのみならず、献身的なスタッフドクターによる貴重な経験も提供する。医療職者のためには、当クリニックは医療問題の複雑化や新しく発見された治療法など最新状況に触れる機会を提供する。同様に重要なのは、医学生にも治療技術を直接学ぶ機会を提供しているということである。



写真11

ウィリアム・ヘンリー・ヴァンダービルト

ウィリアム・ヘンリー・ヴァンダービルトは、1821年スタテン島で誕生した。1865年、彼は父親の経営していた鉄道業の父親の助手となった。20年後、ヴァンダービルト氏は、医学部に9番街と10番街の間の59丁目と60丁目の間の半区画の土地と資金を、医学学校を設立するために医学部に寄付した。寄付を知らせる手紙の中で、彼は、「地域全体の安楽と生命は技術の高い医師たちに頼っているの、医療実践者の育成よりも重要な職業教育はない」と書いている。

1年後、そして上の胸像が制作されて3時間もたたないうちにウィリアム・H・ヴァンダービルトは亡くなった。翌年、彼の4人の息子たち、コーネリウス、ウィリアム・K、フレデリック・W、ジョージ・Wは、父親の思い出のための無料診療所の設立のため25万ドルを寄付した。1947年12月29日、ヴァンダービルト・クリニックはニューヨーク市民に奉仕し始めて60周年を迎える。

「ジョン・スタインバック著ヴァンダービルト・クリニック」は当院の支持者・支援者による報告書シリーズの第3弾である。当パンフレットがさらに必要な場合は、The Presbyterian Hospital, 622 West 168th Street, New York 32, New Yorkの公益課 (the Department of Public Interest) まで書面により連絡すること。

1947年3月発行

a Japanese translation of “Vanderbilt Clinic” by John Steinbeck

Kiyoshi Yamauchi

Department of Human Health Sciences, Faculty of Nursing, Niimi University, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

This is a Japanese translation of the pamphlet of “Vanderbilt Clinic” (March 1947) which consists of the introduction written by the Nobel Laureate John Steinbeck (1902-1968), and explanatory captions.

Key words: Vanderbilt Clinic, John Steinbeck, New York